

研修先：インドネシア大統領府海外労働者派遣・保護庁（BNPPTKI）

実習期間：2013年8月21日(水)から9月6日(金)、計17日間

インターンシップ課題：『EPAによる看護師、介護福祉士の送り出しと受け入れの現状調査』

1. 志望動機

今般のインターンシップは私の研究テーマである「EPAの日本・インドネシア間で看護師・介護福祉士の受け入れと送り出しの実態」を知るためにインドネシア政府側の本政策の管轄庁であるインドネシア大統領府海外労働者派遣・保護庁（以下派遣・保護庁）で直接実務経験を積みたいと考え依頼を致しました。

現在の研究テーマはインドネシアに2009年より約2年半の間勤務していた経験から着想に至り、インターンシップの依頼に際して全職場のご協力、また公益社団法人国際厚生事業団様からの支援により可能になりました。インターンシップ先での業務遂行から調査したかった点は以下です。受け入れ先の派遣・保護庁においては8月20日より来年度の看護師・介護福祉士候補生の能力試験や面談が開始する時期でもあり、日本では報道されていないインドネシアでの本政策の取り組みを調査したく、また残念ながら帰国された元候補生にインタビューを試みたいと強く希望していました。

毎年報道では合格者数の少なさが指摘されるが、日本で合格して働く看護師、また所属する病院への聞き取り調査は行っていたため、残念ながらすでに帰国されている元候補生の追跡調査も行いたいと派遣・保護庁には願い出ていました。

現在、急激な少子高齢化の進む日本では、医師不足や看護師不足が問題視されている中で、それを解決する1つの政策として本インターンを通じて今後将来、日本の医療・福祉政策は外国人労働者受け入れに多いに頼ることになりうると思え、そのための政策整備を言及したいと考察しています。

実際にインドネシア管轄庁との交流を通じて、業務全体像と省庁の意思決定を認識し、実務に必要な公共政策分析手法と当事者である候補生や現在日本で仕事を行っている看護師・介護福祉士の実態に対する理解を深めたいと考え、インターンシップでの受け入れを志望致しました。

2. 所感

約二週間の限られた時間の中で、登庁開始日から最終日の9月6日まで柔軟に対応していただき、また快く受け入れて下さった派遣・保護庁の皆様がこの場を借りて厚く御礼申し上げます。精緻な政策ですが、本年度から運用や体制を再構築すべく日々奮迅し調整される姿を拝見し、高い志をもつ局長のもと、日本とインドネシアの関係は単にEPAだけであつなっているわけではなく、1人でも多くの候補生が日本で力を発揮して欲しいという皆様

のマンパワーを体感させて頂くことが出来ました。

受け入れて下さった(Department Pelayanan Penempatan Pemerintah)政府斡旋対策課はもとより、派遣・保護庁自体が海外から研修生を受け入れることは私が初めてで、インターンシップに伺う前に派遣・保護庁のカウンターパート、日本では国際厚生事業団のご担当者と連絡を取り合い、また本大学でご指導いただいている山田敦教授から推薦状を書いていただき、事前に送付するという個人でインターンシップを行う場合は事前準備が重要な点であると感じました。

事前に日本から来年度の候補生に関する実務に関わりたい点、具体的に15日間カウンターパートと同行すること、また派遣・保護庁の長官にインタビューして本政策に対する見解を聞く、同様に本年派遣・保護庁の実施した能力試験(2013年8月20日)に合格した候補生へのEPA志望動機のインタビュー等リスト化して互いに今後の日本・インドネシアのEPAによるインドネシア人看護師・介護福祉士の未来性を重視する点は一致することができていたと感じました。

なぜなら、初日から局長、事務官、カウンターパートと私で朝から私が何をしたいかと来訪しているのか、また修士論文に必要な書類は何か、だれと会えばよいかなど、派遣・保護庁での実務はもちろんのこと、さまざまな立場から政策を聞くことを局長から勧めいただき、実際にインドネシア国立大学看護学部長、さらにはインドネシアパナソニック会長でありインドネシア・日本友好協会の理事に派遣・保護庁の長官の推薦でインタビューし、本政策について議論することが出来ました。

インドネシア政府見解、また担当する管轄庁のEPAにたいする期待や新規運用や体制を目の当たりにし、学者の見解、そしてインドネシアを代表する有力者でありEPAの立役者でもある会長に会わせていただき局長のご協力なしには知りえないことが多々あり、大変感謝の気持ちでいっぱいです。

今般のインターンシップを通じて、管轄庁で実務を経験したこと、また時間を柔軟に使わせていただけのご配慮のおかげで、すでに帰国している元候補生にも6名にインタビューをすることが出来ました。政策分析を行う上で関係する省庁や当事者に面会することで、さまざまな実態を明確にする事が出来ました。

同時に、本政策を行うことの難しさや、執行側での混乱を招かずに精緻且つ運用し易い政策制度設計を作ることの難しさを認識することが出来たことも大きな収穫です。日本とインドネシアの重要な外交政策でもあり、人が沢山関わる重要な政策であるため、頂戴した資料や経験は今後慎重に論文に反映させていただきたいと存じます。私一人ではここまで出来ませんでした。多くの方のご協力によりさらに両国のために良い政策とはいかなるものかを考えて行きたいと思えます。この場をお借りして、インターンシップにご尽力いただいた皆様に重ねて御礼申し上げます。